

ステロイドを使用せず、長期発熱と全身症状を経て登校を再開した 10 歳アトピーの経過 (10 歳女兒)

症例 ID：001-10-YR | 記録日：2016 年 7 月 18 日

1. 診断・治療前経過

2015 年 2 月下旬、顔のかゆみと赤みが突然出て、首、肩、腕へ広がりました。皮膚科でアトピーと診断され、ステロイドを処方されましたが使用しませんでした。

3 月 31 日に松本医院を受診しました。治療開始後は腹部、背中、足にも症状が広がり、5 月 26 日から発熱を伴って登校できない状態となりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	皮膚科でステロイドを処方されましたが、使用しませんでした。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	使用していません。
中止時期	処方後に使用せず廃棄しました。
来院前／後	来院前・来院後ともに使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
2015 年 2 月下旬	発症	顔のかゆみと赤みが出て、首、肩、腕へ広がりました。
3 月 31 日	治療開始	松本医院を受診し、漢方入浴と外用処置を開始しました。
4 月中旬～6 月中旬	症状の拡大・発熱	腹部、背中、足にも症状が広がり、5 月 26 日から 38 度台の発熱が続いて登校できなくなりました。
7 月 20 日～8 月 24 日	ピーク	高熱、全身痛、浸出液、落屑が続き、寝返りや食事に介助が必要でした。
8 月 25 日以降	生活動作の回復	自力歩行、食事、階段昇降が可能となりました。
10 月中旬以降	登校再開	午前中の登校を再開し、休みながら学校生活を送りました。
2016 年 6 月頃	皮膚の変化	顎の皮膚が治療前に近づき、鏡を見るようになりました。

4. ピーク時期

ピークは、2015 年 7 月 20 日から 8 月 24 日頃に 37～39 度台の発熱、全身の強い痛み、浸出液と落屑が重なり、寝返りや起き上がり、食事、排泄に介助が必要となった時期です。

5. 困りごと

- ・高熱と全身の痛みにより長期間登校できませんでした。
- ・寝返りや起き上がりが難しく、食事や排泄にも介助が必要でした。
- ・外見の変化に本人が強く傷つき、毎日のように泣く状態が続きました。
- ・保護者が休職し、付き添って看病する必要がありました。

6. 経過のまとめ

2015 年 8 月末には自分で歩き、食事や階段の上り下りができるようになりました。10 月中旬以降は午前中から登校を再開し、休みを挟みながら学校生活を送るようになりました。2016 年 6 月頃には顎の皮膚が治療前に近い状態となり、鏡を見られるようになりました。

本ページは患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の結果を保証しません。